

植村利男教授の定年退職に寄せて

経済学研究科委員長 土肥原 洋

植村利男先生は2020年度をもって定年退職をお迎えになります。ここに先生の長年のご功績とご尽力に改めまして敬意を表し、厚く御礼申し上げますとともに、先生のご活躍の一端をご紹介します。本稿では、先生の数多のご功績の中で、必ずしも中心に位置するものではないかもしれませんが、経済学研究科でのご活躍と、日本経済政策学会第74回全国大会につきまして記述し、私どもの大きな感謝の気持ちといたしたいと思います。

亜細亜大学経済学研究科は、学部卒業生や社会人が進学する税理士等の専門的職業を目標にする学生と主にアジア地域出身の留学生が学んでいます。植村先生は、長らく経済学部長を務められた後、引き続き経済学研究科委員長を務められました。また、研究科前期課程では経済政策研究、経済政策論演習、公企業研究、公企業論演習、後期課程では、経済政策特殊研究、公企業特殊演習と数多くの科目を担当され、まさに経済学研究科の中心的な役割を担われてこられました。そうした広範な科目群のご担当をされ、学部卒業生から留学生まで、多くの大学院の学生を丁寧にご指導してくださいました。ご退職の年も、中国人留学生をご指導いただき成果を挙げられました。

植村先生はご研究に関しても大変熱心に取り組んでこられました。学会活動としましては、日本経済政策学会と公益事業学会の理事など中心メンバーとして、広範なご活動を続けてこられました。日本経済政策学会では、長年関東部会の理事を務められています。なかでも亜細亜大学において日本経済政策学会の全国大会を開催し、経済政策に関する研究及び発信の拠点とするといった構想の実現に取り組んでこられました。亜細亜大学武蔵野キャンパスが整備された段階で、先生の構想は実現しました。新装なって間近の白亜の亜細亜大学5号館を主たる会場にして、2017年5月27日(土)、28日(日)の2日間にわたって、日本経済政策学会第74回全国大会が開催されるに至りました。戦前に設立された長い歴史を持つ同学会が、本学で最初に全国大会を開催したのは1975年でしたので、42年ぶりの開催でした。

大会は、「経済環境の変化と経済政策—アジア経済連携と日本の関与—」のテーマの下に、現下の日本経済の直面する課題と東アジア諸国との連携を視点においた諸課題と解決の方向を示唆することになりました。こうしたテーマや大会の構成は、まさに植村先生がお一人で企画され、実現にこぎつけたといっても過言ではありません。まことに時宜を得た意義深いテーマであったと思いますし、ここでの議論は今後の日本経済にも活かされていくものと信じております。なお、2日間にわたる大会は両日も150人が出席し、合計299人の出席者を数える盛況振りでした。参加されました他大学の先生方からは、テーマや内容ばかりではなく、学生スタッフなどの態度にまで、お褒めの言葉をいただきまして、まさに亜細亜大学の存在を印象付ける大会になったと感じました。

植村先生は、常日頃、黒い大きな四角いかばんを自転車に乗せて、まさに風を切って颯爽とさわ

やかに登場されます。コロナ禍の中、ここ1年ほどは直接お目にかかる機会は減ってしまいましたが、それでも私どもの目にそのお姿は焼きついております。まだまだお若くてお元気な先生のこと、今後もご活躍が続けられると思います。末永くご指導、ご鞭撻をお願いしまして、ささやかではありますが、お祝いの言葉とさせていただきます。